**ロータリー奉仕デー**

**それぞれの最上川ものがたり** **PartⅡ**

**2024年10月中、各クラブ実施**

伊藤年度の最上川ものがたり、成功裏に終了できた事は大変よろこばしく思います。

多くのロータリアン、一般の方々のご協力を得ながら実施された奉仕活動は、ロータリー活動の一端を体験していただき成果がありました。芳賀年度も引き続き、我が山形県の「母なる川、最上川」の環境保全と美化に貢献し後生に残す事が何よりも大事であり『PartⅡ』として実施します。

我がふるさと、白鷹町は最上川の恩恵を多く受けております。町の中央を流れる雄大な最上川を、司馬遼太郎の街道をゆく「羽州街道、佐渡のみち」編で最上川を下記の様に紹介しています。

「最上川を見るために山形県に来たようなものだが、まだこの川を見ていない」・・・・・・長井の町の北端までゆくと、大きながかかっている。下は地が大きくくりぬかれて、黒々とした川が流れていた。最上川であった。更に北へゆき荒砥（白鷹町）という土地で車を降りて「堤の上にのぼってみた。まことに大地の岩盤をで削りこんだようにして川が流れている。（白鷹町菖蒲）流れが速い。水深が深く水量が多いために、決して気ぜわしく流れる感じでなく、が水塊を無限に押しつづけるようにして流れている。**「そのすがたは風景というようなものではなく、*人格というほかない大きなを感じさせる*」**。

芭蕉がこの最上川を俳句にして以来、多くのがこの川を見るために訪ねた。・・・・

また最上川舟運については、黒滝（白鷹町菖蒲）のがある。この滝のため米沢方面に舟を出すことが出来なかった。滝の側に舟番所があり、一旦舟荷は黒滝で積み替えられ滝の上流の長井・米沢を目指したと言われていた。その舟荷積み替えが大変であったようで、３ｍ弱の滝を開鑿すれば荷積み替えせずに米沢に向かうことができ大幅に時間短縮出来るため、京都の豪商西村久左衛門が私財1万７千両の工費を費やし1年３ヶ月掛けて元禄７年（1694年）９月に完成させた。その功績は甚大で米沢上杉藩の財政改善に大きく寄与したと言われている。

参考　1両＝130､000円＊17､000両＝2,210,000,000円（約22億円）